

フランチェスコ・バッタリオーリ『アランフエスの庭園のフェルナンド6世とバルバラ王妃』1756年

曲目解説

Sonata K.208

ソナタ イ長調 K.208

Domenico Scarlatti（1685–1757） ドメニコ・スカルラッティ

曲目解説

Sonata K.208 ソナタ イ長調 K.208

Sonata in A major, K.208 (L.238) ／ 鍵盤楽器のためのソナタ

Domenico Scarlatti（1685–1757） ドメニコ・スカルラッティ

作曲	1750年代はじめまでに（1753年の筆写譜集に収められている）
原曲の編成	チェンバロ（鍵盤楽器）独奏
調・拍子	イ長調・4分の4拍子・Adagio e cantabile（ゆっくり、歌うように）
この楽譜	Pierre Gouin 校訂（2013年、IMSLP、CC BY-SA 4.0）の右手を笛、左手を伴奏にした

作曲者

ドメニコ・スカルラッティは、ナポリに生まれたイタリアの作曲家です。
父アレッサンドロも名高いオペラ作曲家でした。バッハ、ヘンデルと同じ1685年の生まれで、
若いころローマでヘンデルとチェンバロとオルガンの腕比べをしたという逸話が伝わっています。

リスボンの宮廷で、ポルトガルの王女マリア・バルバラにチェンバロを教え、
1729年に王女がスペインの王子に嫁ぐと、ともにスペインへ移りました。以後、
マドリードの宮廷で生涯を過ごし、王女（のちの王妃）のために、
1楽章だけの短いソナタを数多く書きました。カークパトリックの作品目録では、
その番号が555まであります。

曲の成り立ち

スカルラッティのソナタの多くは、晩年にスペインで書き写された筆写譜集によって伝わっています。K.208は、ヴェネツィアのマルチャーナ図書館にある筆写譜集の、1753年の巻に収められています。

ソナタはふつう、同じ調の2曲が組になって並べられています。K.208 は、続く K.209（イ長調、快活な曲）と組になると考えられ、ゆっくりした歌のあとに、明るく速い曲が続きます。

スペインで暮らしたスカルラッティのソナタには、ギターをかき鳴らすような和音や、
スペインの民謡を思わせる響きがよく現れます。この曲がギターで弾かれることが多いのも、そのためです。

曲調と聴きどころ

左手が4分音符で静かに歩むような伴奏を刻み、右手がその上で、装飾をちりばめた歌を歌います。
チェンバロの曲ですが、題のとおり「歌うように」書かれていて、
笛やヴァイオリンで歌うのにもよく合います。

前半は、イ長調からホ長調へ向かい、後半は、遠い調を巡りながら、ためらうような和音（減7の和音など）を経て、イ長調に戻ります。13小節と25小節の終わりの、トリルの付いた結びが聴きどころです。

曲の流れ （小節番号は、この楽譜の小節番号）

小節	内容
1〜4	主題。前打音（小さな音符）の付いた、ため息のような歌い出し
5〜13	16分音符の細かい動きで、ホ長調へ向かって高まる
14	前半の終わり（ホ長調）。くり返す
15〜19	後半。b' のトリル（tremulo）から始まり、遠い調を巡る
20〜24	ためらうような和音を経て、イ長調へ戻る
25	トリルの付いた結びで、静かに終わる。後半をくり返す

音楽のしくみ （かんたんな音楽理論）

調　イ長調

ラを主音とする長調で、調号は♯が3つ（ファ・ド・ソ）。前半の終わりで、♯が4つのホ長調（属調）へ移り、後半でイ長調に戻ります。この「主調から属調へ、また主調へ」の形は、
スカルラッティのソナタの基本の形です。

拍子　4分の4拍子

1小節に4分音符が4つ。左手の伴奏は4分音符で、1拍ずつ静かに歩みます。

前打音とトリル

主音の前に付いた小さな音符（前打音）は、拍の頭で吹いて、次の音へなめらかに下ろします。笛では、
指打ちで装飾をつけるような感覚です。トリル（tr）は、上の音から始めて、ゆっくり目にかけると、
チェンバロらしい落ち着いた響きになります。

篠笛の楽譜と調について

　同じ曲を、全体の高さを同じ幅だけ上げ下げして書き直すことを「移調」といいます。
篠笛は1本ごとに高さが違うので、笛に合わせて調を選ぶと、無理のない指づかいで吹けます。チューナーの「基準 A」は、ラの音を何ヘルツに合わせるかのことで、ふつうは 440Hz です。
笛に合わせて伴奏の基準を少し下げると、笛を無理にカらずに音程がそろいます。

楽譜	内容
標準の運指版	イ長調（原調）。運指は「一＝ド」として付けています。笛だけで吹くなら、何本調子の笛でも同じ指で吹けます（鳴る高さは笛によって変わります）。伴奏（A＝440Hz）と合わせるときは、一 がおよそドの笛（目安：八本調子前後）を使います。
六本調子版	六本調子（古典調）の笛のための楽譜です。変ロ長調（原曲より半音上）、チューナーの基準A＝436Hz（全体を25セント低く）。実測した六本調子の笛で、×の運指やメリ・カリがいちばん少なく吹ける調を選び、音ごとのメリ・カリの量も書いています（笛によって前後します）。

藤舎名玄　2026